

## （奈良市中心市街地（奈良もちいどのセンター街）の活性化）

中心市街地は、都市機能が集積し、長い歴史の中で文化、伝統をはぐくみ、各種機能を培ってきた「まちの顔」とも言うべき地域である。近年、モータリゼーションの発展、消費者のライフスタイルの変化により、生活しにくい拡散型の都市構造になってきている。都市機能がコンパクトに集積し、高齢者も含めた多くの人にとって快適に暮らせる町づくりが求められている。

内閣府は、民間事業者の企画・実行力を活用することが必要と考え、市町村のまちづくりと一体となった中心市街地活性化への民間事業者の取組みに対し、支援する補助制度を設けた。

この制度を活かして、奈良もちいどのセンター街に、食品系スーパーと、小劇場がオープンする動きが出てきた。

■県内でお酒の専門店を展開している会社が、本業のお酒だけではなく、野菜、肉、魚、惣菜、その他食品、雑貨の7つの専門店で構成する食品系スーパーを開店する準備を進めている。数年前に生鮮三品の店がなくなったこともあり、商店街の期待も大きい。

■地元の印刷会社が、若者に魅力のある通りにしたいと、もちいどのセンター街にあった旧工場と事務所を（仮称）「ならまち劇場」に改装する。芸術への嗜好が多様化する現在、「小劇場」と呼ばれる演劇集団へのファン層が拡がりを見せている。奈良出身の若者が、東京、大阪、京都で活躍していることから、奈良に「小劇場」を作り、県内外のファンを集め活性化につなげると同時に、奈良から全国区の劇団を生み出す役割を担いたいとしている。

奈良市では、「中心市街地活性化基本計画」を策定中であり、これらの事業も組み入れている。

一方、19年3月から、奈良商工会議所、奈良

市市街地開発（株）が中心となって、奈良市、商業関係者、公共交通機関、住民代表、有識者など19名からなる「奈良市中心市街地活性化協議会」が奈良商工会議所内に設立された。

同協議会は、奈良市が作成した「中心市街地活性化基本計画」に関して構成員の声を反映した「意見書」を作成し、奈良市に提出する。奈良市は、この「意見書」を添えて「基本計画書」を国に認定申請することとなっている。

昨年4月、商業インキュベータ「もちいどの夢キューブ」が誕生し、空き店舗も減少し、同商店街は活気づいており、今後、二施設が立ち上がれば益々発展するものと期待される。（上田）



食品系スーパーが開店するビル



（仮称）「ならまち劇場」に改装する印刷会社の店舗

### これからの主な催し

〔主な行事〕

● 2月20日（水）13時～

浄見原神社 国栖奏（奈良県無形文化財）

約1,760年前、応神天皇が吉野の宮（今の宮滝遺跡）に行幸されたとき、国栖一夜酒をつくり歌舞を奏して天皇を慰めた故事にはじまるといわれている。

壬申の乱の大海人皇子をかくまった際も、国栖奏を奏し翁の称を賜ったといわれる。

今も古式そのままに毎年旧暦正月14日に奏楽舞踏が奉納されている。

場所：奈良県吉野郡吉野町南国栖

近鉄吉野線 大和上市駅より

バス 国栖経由湯盛温泉行き約35分

南国栖下車 徒歩約5分

問い合わせ先：吉野町文化観光商工課

TEL：0746-32-3081